

大学合唱団緊急座談会

全日本合唱連盟
ハーモニー誌を公開
コロナ禍を経て取り戻した
「私たちの居場所」

男声合唱団コール・グラントツ団内指揮者 たかはる
『おんがく広場』編集委員(クッキー会) **野口享治**

大学サークルにとっては新歓活動のPDCAを回していくための大切な時期がやってきましたね。このような時期に合わせるように1月30日、全日本合唱連盟のホームページに「大学合唱団緊急座談会 ハーモニーNo.206掲載記事公開」のご案内が掲載されました。

タイトルは、「コロナ禍を経て取り戻した『私たちの居場所』」。コロナ禍に直面する中、成功体験、失敗体験の双方を経験しながら頑張っ、勧誘に手ごたえを得始めている大学合唱団のみなさんたちの座談会記事です。

「**大学合唱団が危ない**」といわれて久しいですが、このような元気ができるお話を、新年度の新歓計画立案時期であるこの時期に公開されたのは、まさに大学合唱団へのエールだと思って読みました。大学合唱団のみならず、社会人合唱団のみなさんにもとても参考になる座談会内容でしたので、いくつか記事の中のキーワードをかいつまんでご紹介したいと思います。

「コロナ禍と合唱」 大学合唱団緊急座談会
コロナ禍を経て取り戻した「私たちの居場所」
<https://www.jcanet.or.jp/Public/daigaku-seminar.htm>

横のつながりも大切だが、縦のつながりも大切

「一人しかいない先輩が縦のつながりを大事にして、積極的に交流してくださったお陰で今がある」という言葉は、組織運営、団員定着における先輩、OBOGの役割、言動の大切さを象徴していると思います。先輩諸君、あなたの言動が団を「支える力」になっていますよ。

オンラインでも合唱はできるか？

オンラインに対する大学生の本音は「ただの音取り。活動という名目をつくるためのもの」。合唱の条件を「みんなで歌うこと」「その場で声を合わせる臨場感(ハモった瞬間が一番)」「五感で感じるもの」「歌っている友達を見て、楽しそうだなと思うのが醍醐味」という言葉が寄せられていました。楽譜に首っだけのシニア合唱団のみなさん、ハッとさせられませんか？

勧誘は「知ってもらう」「検討してもらう」「入団後ケア」の3フェイズで

強引な押し売りはだめということですね。昭和の人は、「無理やりチラシを握らせる」「部室まで拉致する」なんて強引な手法を好む方も多かったようですが(笑)、そもそも人海戦術なんてできるだけ的人员がいなし、昔の非合法的なやり方じゃブラックサークルと言われ、益々人員を減らすことになっちゃいますね。やはり丁寧な対応は大切だと考えられているようです。

また、合唱団Tシャツの背中にQRコードがついていて、何気に読み込むと団のホームページに飛ぶなんてアイデアを実施している団もありましたし、練習に来てもらった人には、主旋律をうたってもらい、まわりがハモらせてあげるなんてことで心を揺さぶる工夫をされた団もありました。👍

3年生からの入団者も多数

新歓は1年生だけのためじゃないということですね。秋の新歓で成果をあげた団体もあり、まさに「ブルーオーシャン(競争相手のいない市場)」をうまく活用した事例です。企業同様、通年採用体制は有効そうです。兼団活動される方も多くいるようですので、スカウティング、リファールも組み合わせてもよいかも…。

合唱団活動は「経営」である

「サークル運営」などといわずに、「経営」と言っている学生さんがおりました。まさにその通り、合唱団ってある意味「経営」なんですよね(実感です)。そこに気づいているあなたは素晴らしい。将来きっと立派な経営者、起業家になりますよ！！

「問題があったら解決しよう」と前向きになれた

全日本合唱連盟が実施した新歓アンケートでは、団の総人数の中心値は11~20人(30.5%)、コロナ前に比べて団の総人数が減ったとの回答は5割強と、合唱団にとって決して明るい話題だけではないのですが、「問題があったら解決しよう、と前向きになれたこと、そうやって自分の居場所、みんなの居場所を守っていく経験ができたことが本当に大きかった」との発言に心動かされるものがありました。大学合唱団にこういった人材がたくさんいることは頼もしいですね。

「問題は“opportunity(機会)”」だと思って、みなさん頑張ってくださいね。私はこれからも大学合唱団の演奏会にたくさん足を運びたいと思います。